

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 21No. 3; Cover, Contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009185

1996—21_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告



ボルネオ・ムルット社会の葬礼に見られる贈与交換と社会関係———上杉富之

中国朝鮮族にみる村の生活

——吉林省星火村の調査報告———韓 景旭

オルドス・モンゴルの祖先祭祀

——末子トロイ・エジン祭祀と八白宮の関連を中心に———楊 海英



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

21 卷 3 号

1996 年

目 次

ボルネオ・ムルット社会の葬礼に見られる贈与交換と社会関係 ……上杉富之……	513
中国朝鮮族にみる村の生活 ——吉林省星火村の調査報告——……………韓 景旭……	569
オルドス・モンゴルの祖先祭祀 ——末子トロイ・エジン祭祀と八白宮の関連を中心に—— ……楊 海英……	635
彙 報 ……	709
国立民族学博物館研究報告寄稿要項 ……	712
国立民族学博物館研究報告執筆要領 ……	713

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 21 No. 3

1996

- UESUGI, Tomiyuki Gift-Exchange and Social Networks among the
Murut of Sabah, East Malaysia 513
- HAN, Jingshu Village Life of Korean Chinese: A Social Survey of
X. Village in Jilin Province 569
- YANG, Haiying The Ritual of Ancestor Worship among the Ordus
Mongols 635

彙 報

(平成8年7月～
平成8年9月)

人事異動

(教育職)

(採 用)

8月1日 第三研究部助手 野林 厚志
第四研究部助手 齋藤 晃
第五研究部助手 加藤 昌彦

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	8. 7. 3	8. 7.12	中華人民共和国
田邊 繁治	教 授(第二研究部)	8. 7. 7	8. 9. 6	イギリス
野村 雅一	教 授(第三研究部)	8. 7.16	8. 8.15	イギリス, イタリア
西尾 哲夫	助教授(第二研究部)	8. 7.16	8. 8.16	エジプト, イギリス
庄司 博史	助教授(第三研究部)	8. 7.18	8. 8.24	フィンランド, ロシア, エストニア
佐々木史郎	助教授(第四研究部)	8. 7.18	8. 8.10	ロシア, ドイツ
松原 正毅	教 授(地 域 研)	8. 7.20	8. 7.27	モンゴル
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	8. 7.20	8. 7.27	モンゴル
石毛 直道	教 授(第一研究部)	8. 7.20	8. 8. 1	モンゴル, 中華人民共和国
ピーター・ジョゼフ・マシウス	助 手(第四研究部)	8. 7.28	8. 8.22	インドネシア
村上 勇介	助 手(地 域 研)	8. 7.28	8. 8.16	メキシコ, カナダ
崎山 理	教 授(第五研究部)	8. 7.29	8. 9. 4	インドネシア
朝倉 敏夫	助教授(第一研究部)	8. 7.29	8. 8.29	中華人民共和国
寺田 吉孝	助 手(第二研究部)	8. 7.31	8. 8.13	アメリカ合衆国, カナダ
阿部 健一	助 手(地 域 研)	8. 8. 1	8.10.15	ベトナム, 中華人民共和国
栗田 靖之	教 授(第二研究部)	8. 8. 3	8. 8.18	ブータン, インド
福岡 正太	助 手(第二研究部)	8. 8. 4	8. 8.21	インドネシア
池谷 和信	助 手(第一研究部)	8. 8. 5	8. 8.11	オランダ
吉田 集而	教 授(地 域 研)	8. 8. 6	8. 8.30	オーストラリア
松山 利夫	教 授(第三研究部)	8. 8. 7	8.12.12	オーストラリア
松原 正毅	教 授(地 域 研)	8. 8. 7	8. 8.31	ロシア, モンゴル, 中華人民共和国
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	8. 8. 7	8. 8.31	ロシア, モンゴル, 中華人民共和国
吉田 憲司	助教授(第四研究部)	8. 8.17	8. 9.21	ガーナ, カメルーン, イギリス
秋道 智彌	教 授(第一研究部)	8. 8.18	8.10. 6	インドネシア
野村 雅一	教 授(第三研究部)	8. 8.22	8.10.11	イタリア, ルーマニア
三島 禎子	助 手(第三研究部)	8. 8.28	8.12.13	セネガル
帯谷 知可	助 手(地 域 研)	8. 8.29	8. 9.14	ロシア
山田 睦男	教 授(地 域 研)	8. 8.31	8. 9.22	ロシア, ポーランド, ドイツ, デン マーク, オランダ, イギリス

福岡 正太	助手 (第二研究部)	8. 9. 1	8. 9. 9	ラオス
森田 恒之	教授 (第五研究部)	8. 9. 2	8. 9. 9	マレーシア
立川 武藏	教授 (第二研究部)	8. 9. 2	8. 9.16	ドイツ, アメリカ合衆国
押川 文子	助教授 (地域研)	8. 9. 4	8. 9.21	オランダ, エジプト, インド
大森 康宏	教授 (第五研究部)	8. 9. 5	8.10.24	フランス
大塚 和義	教授 (第一研究部)	8. 9. 6	8. 9. 9	大韓民国
佐々木史郎	助教授 (第四研究部)	8. 9. 6	8. 9.22	ロシア
小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	8. 9. 7	8. 9.29	モンゴル
栗本 英世	助教授 (第三研究部)	8. 9. 8	8. 9.23	イギリス
林 勲男	助手 (第四研究部)	8. 9. 8	8. 9.23	イギリス
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	8. 9. 9	8. 9.22	中華人民共和国
山本 紀夫	教授 (第五研究部)	8. 9.10	8.10.16	ネパール
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	8. 9.12	8. 9.21	フィンランド, スウェーデン, ノルウェー
ピーター・ジョゼフ・マシウス				
	助手 (第四研究部)	8. 9.15	8.12.15	キプロス
杉田 繁治	教授 (第五研究部)	8. 9.15	8. 9.23	大韓民国
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	8. 9.15	8. 9.23	大韓民国
田村 克己	助教授 (第五研究部)	8. 9.25	8.10.10	ベトナム
村上 勇介	助手 (地域研)	8. 9.28	8.11.22	アメリカ合衆国, メキシコ, ペルー
江口 一久	教授 (第三研究部)	8. 9.30	8.10. 9	インドネシア, シンガポール

来館者抄

7月1日	ヘレン・F・シウ (アメリカ合衆国, イェール大学人類学部教授)	創価学会関西報局担当局長)
7月4日	Dewi Soenarijadi (インドネシア共和国, インドネシア科学院研究機関共同部門部長)	吉岡 泰夫 (国立国語研究所言語変化研究部第一研究室長)
	内永ゆか子 (日本アイ・ピー・エム株式会社取締役)	7月24日 Ngo Duc Thinh (ベトナム, ベトナム社会科学院民俗学研究所所長), 莊 景 輝 (中華人民共和国, 廈門大学人類学博物館副館長), 馬 建 釗 (広東省民族研究所所長)
7月8日	朝比奈秀夫 (日本万国博覧会記念協会理事長)	7月25日 金 文 雄 (大韓民国, 大邱教育大学教授), 姜 顯 国 (大邱教育大学教授), 洪 相 完 (大邱教育大学教授), 鄭 在 傑 (大邱教育大学教授), 張 二 權 (大邱教育大学教授, 兵庫教育大学外国人客員研究
7月13日	中国・佛山市人民对外友好協会訪問団一行	
7月23日	木村 勝 (創価学会大阪社会協議会議長), 合田 昌平 (創	

員), 広瀬 正美 (兵庫教育大学副学長)

8月2日 ベルギー・ハッセルト市学生訪問団一行

8月29日 RIEGER, Robert (アメリカ合衆国, コーネル大学),
LOVERANCE, Rowena Kathryn (イギリス, 大英博物館)

9月5日 西尾 正也 ((財)大阪21世紀協会理事長)

CAMPBELL, John Creighton (アメリカ合衆国, ミシガン大学教授)

9月10日 東京都千代田区教育委員会一行

9月13日 WEBSTER, Gloria Cnanmer (カナダ)

9月19日 RRYAL Nabin Saleh Eddin Raghed (ヨルダン, ハヤ文化センター所長)

9月30日 松山 義則 (同志社大学総長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたらえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]

[Leach 1961: 123]

[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 21卷3号

〔監 修〕

佐々木 高明

〔編集委員長〕

小山 修三

〔編集委員〕

秋道 智 彌

泉 幽 香

上杉 富之

江口 一久

佐々木 史郎

清水 昭俊

新免 光比呂

杉本 良男

長野 泰彦

林 勲男

吉 田 集 而

平成9年3月5日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 21卷3号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市千里万博公園 10-1

TEL 06(876)2151(代表)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.21 no.3
1996

- UESUGI, Tomiyuki** **Gift-Exchange and Social Networks among the Murut of Sabah, East Malaysia**
- HAN, Jingshu** **Village Life of Korean Chinese: A Social Survey of X.Village in Jilin Province**
- YANG, Haiying** **The Ritual of Ancestor Worship among the Ordus Mongols**

ISSN 0385-180X



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151